

町田市立国際版画美術館
企画展

Machida Connection
町田ゆかりの作家展

2013/3/9→4/7

出品リスト

作品キャプションは下記の順序で記載されています:

出品番号
題名
制作年/技法/サイズ(mm)
限定番号(記載のある場合)

会場の都合上、リストと作品の展示の順番は必ずしも一致していません。

田河 水泡

たがわ・すいほう、1899-1989

東京市本所区(現在の墨田区)出身。1967(昭和42)年から町田市玉川学園に暮らした。

若い頃は前衛美術に熱中、大正期には美術団体MAVO(マヴォ)に参加、過激で挑発的な活動を展開した。1927(昭和2)年より漫画を描き始め、「のらくろ」シリーズで絶大な人気を得る。関野準一郎にエッチングを習い、1959(昭和34)年から一線美術展に出品を続けた。現在、町田市民文学館で「滑稽とペース 田河水泡“のらくろ”一代記」展を開催中(3/24まで)。

1. のらくろのいる風景 成瀬
1973 頃 水彩 312×408 mm
2. 廃城
1977 頃 エッチング、アクアチント 213×320 mm 6/50
3. レンツブルク
1977 頃 エッチング
230×320 mm 8/75
4. コッヒエムの城
1981 頃 エッチング
233×325 mm 31/48
5. チューリップ B
1983 エッチング、アクアチント 324×233 mm 3/48

6

シンビジューム A
1983 頃 エッチング
318×223 mm 7/48

7

ばら A
1983 頃 エッチング
328×232 mm 4/48

三井 壽

みつい・ひさし、1921-1988

京都府京都市出身。1953(昭和28)年より町田市能ヶ谷に暮らす。

南画家・三井飯山の三男として生まれ、京都市立美術学校などで日本画を学ぶ。戦後民主化運動の先頭に立って文化活動に奔走しながらも病のため早世した兄の影響を受け、黙々と労働に励む農民や素朴な野の仏の姿を木版画に表現した。鶴川村能ヶ谷(現在の町田市能ヶ谷)の自宅兼アトリエを「碧林山房(へきりんさんぼう)」と名付け、そこで終生創作に励んだ。

8

農婦
1961 木版 610×470 mm

9

馬と農夫
1963 木版 570×730 mm

10

老農坐像(話し)
1971 刷 木版 500×575 mm

稲田 年行

いなだ・としゆき、1925-

山口県萩市出身。

東京美術学校油画科で安井曾太郎に学ぶ。在学中に印刷会社でアルバイトをしたことがきっかけで、リトグラフの制作を始める。力強いストロークで描かれた黒一色の作品から、微妙な色調の多色刷りリトグラフへと表現がうつっていった。岐阜大学や常葉学園浜松大学で教鞭をとるとともに、浮世絵の研究や郷土玩具の収集でも知られ、関連の著書も出されている。

11

海への幻想
1984 リトグラフ
450×675 mm A.P.

12

海への幻想(色違い)
1984 リトグラフ
450×675 mm 3/5

13

海への幻想 連作(B)
1985 リトグラフ
677×452 mm 3/20

14

海への幻想 連作(C)
1985 リトグラフ
685×510 mm 2/15

<p>松本 旻 まつもと・あきら、1936-</p>	<p>17 風景から 4-L 1974 スクリーンプリント 475×595 mm 3/20</p>	<p>田中 陽子 たなか・ようこ、1947-2008</p>	<p>30 duo 1991 木版、コラージュ、手彩色 885×625 mm 4/30</p>
<p>大阪府大阪市出身。1970年より1998年まで町田市に暮らす。 浮世絵版画の摺師として働くうちに油彩と版画の制作をはじめ。作品から個性や手の痕跡を消したいと考える松本にとって版画は有効な表現手段であり、油彩・版画・オブジェを並行して制作している。出品作品では、日本人にとって特別な存在である富士山を取り上げ、配置と色彩に還元して特別な意味を消し去り、ついには無化しようと試みている。モチーフは借り物に過ぎないとする松本の関心は、やがて版自体の特質や構造に向けられ、さまざまな色の点を規則に従って並べた「配色」、正方形の版を90度ずつ回転させ4色で塗り重ねていく「転回」などのシリーズへと至る。無数の色点をひとつひとつ並べたり、彫る行為に費やされた時間もまた、表現の重要な要素である。</p>	<p>18 風景から 4-1 1977 リトグラフ 463×575 mm 4/30</p> <p>19 配色(10色-2) 1980 スクリーンプリント 470×630 mm 10/40</p> <p>20 配色(12色-1) 1980 スクリーンプリント 470×630 mm 9/40</p> <p>21 配色(対比-4) 1984 スクリーンプリント 450×711 mm 11/20</p> <p>22 配色(対比-1) 1984 スクリーンプリント 450×710 mm 10/20</p> <p>23 配置(転回W4-陽) 1985 木版 600×600 mm 7/20</p>	<p>京都府出身。町田市成瀬台に暮らした。 和光大学芸術学科第一期生で、小野忠重の「版の会」でも木版画を研究。 1980年代より人体をモチーフとして、鮮やかな色彩と単純化された形態で躍動感あふれる作品を制作。90年代以降は抽象的なフォルムが中心となり、さらに2000年代に入ると、ロール状の長い麻布に連続してフォルムを刷り、タペストリー状に床や壁に配置し、空間を取り込むインスタレーションの制作に取り組んだ。今後の展開が期待されていたが2008年(平成20)3月急逝した。</p>	<p>31 つらなり 2001 木版、ロウ、手彩色 660×1795 mm</p> <p>32 とわに 2004 木版 450×1200 mm 2/20</p>
<p>15 富嶽十二色 blue</p>	<p>24 配置(転回W5-陰陽) 1985 木版 600×600 mm 7/20</p>	<p>26 走る人Ⅲ 1985 木版 488×1050 mm 4/10</p>	<p>柄澤 齋 からさわ・ひとし、1950-</p>
<p>1971 亜鉛凸版、木版、スクリーンプリント 483×320 mm 14/20</p>	<p>25 配置(転回W13) 1994 木版 795×795 mm 2/20 作家蔵</p>	<p>27 とぶ人Ⅱ 1986 木版 435×780 mm 6/60</p>	<p>柄木県日光市出身。1998(平成10)年より2012(平成24)年まで町田市在住。創形美術学校卒。日和崎尊夫に木口木版の技法を学ぶ。この技法での制作を続けるとともに、コラージュやオブジェなど、さまざまな表現方法に取り組み、昨年11月の個展では銅版画のドライポイントによる作品を発表した。1993(平成5)年印刷と出版の工房「梓丁室」(していしつ)を自宅に開設、詩画集や版画集の出版を続けている。出品作もそのひとつ。日本の芸術表現に特長的な「みたて」と「やつし」によって、東西の英雄や神話伝説の主人公を歌舞伎の世界にうつしかえてみせている。</p>
<p>16 富嶽十二色 pink 1971 亜鉛凸版、木版、スクリーンプリント 487×318 mm 5/20</p>	<p>29 人もよう とぶ人 はねる人 1987 木版 1003×635 mm 14/60</p>	<p>33-40 版画集『傾草紙』より 2001 木口木版 55部のうち緻</p>	<p>33-40 版画集『傾草紙』より 2001 木口木版 55部のうち緻</p>

33 助六 160×96 mm	集や蔵書票も多数制作している。今回展示している版画集『MARIONETTE』は、熱心なファンの求めて手彩色を加えた特別な一冊である。	53-54 版画集『庭園の闇』より 1996年 エッチング 3/45 53 庭園の闇 1 210×180 mm 54 庭園の闇 2 210×175 mm	が見られる。1983(昭和58)年以降は静物をクローズアップした作品や混合技法による抽象作品へと展開、近年は油彩の静物画や青墨下地素描を中心に制作している。
34 曾我兄弟 116×102 mm			
35 聖セバスチャン 168×122 mm			
36 聖クリストフォルス 150×98 mm			
37 牛若丸 86×58 mm		55 銅版画集『薔薇の秘法』 1977 エッチング 215×155 mm(本) 85/100	58 髭男と昆虫 work NO.33 1973 エッチング、アクアチント 450×600 mm 29/30 作家蔵
38 弁慶 87×58 mm	45 漂う夢の時間 1976 エッチング 361×195 mm 7/30		
39 サロメ 192×80 mm		56 手彩色銅版画集『仮面の肖像』 2001 エッチング、手彩色 205×145 mm(本) 17/30	59 昆虫塚 work NO.1 1974 エッチング、アクアチント 295×445 mm 1/30 作家蔵
40 アーサー王 156×105 mm			
41 『掌宇宙 I.仮面』 1982 木口木版、手彩色 115×81 mm(紙) 53/70	46 闇への誘い 1978 エッチング、アクアチント 365×242 mm épreuve d'artiste		
42 『掌宇宙 II.十二宮』 1982 木口木版、手彩色 115×81 mm(紙) 11/70	47 夜の仮面 1978 エッチング、アクアチント 360×210 mm épreuve d'artiste	57 腐蝕銅版画集 『MARIONETTE』 2005 エッチング、手彩色 280×145 mm(本) 30部のうち	60 箱の中の髭男 作品 NO.8 1974 エッチング、アクアチント 450×600 mm épreuve d'artiste 作家蔵
43 『掌宇宙 III.玩具』 1983 木口木版、手彩色 115×81 mm(紙) 43/70	48 四季・春 1980 エッチング 364×225 mm épreuve d'artiste	山野辺 義雄 やまのべ・よしお 1936-	61 箱の中の髭男 work NO.2 1974 エッチング、アクアチント 450×600 mm 5/30 作家蔵
44 版画集『七福神』 2001 木口木版 195×140 mm 55部のうち紀	49 四季 夏 1980年 エッチング 364×225 mm épreuve d'artiste	福島県いわき市出身。1980(昭和55)年より町田市在住。東京藝術大学油画専攻科および版画専攻科修了。銅版画を中心に、油彩も並行して制作。1973(昭和48)年ヨーロッパを訪れた際にブリュッセルに感銘を受け、マネリスム版画の中の人物を引用した「小人ノ国」シリーズに着手、国内外で高い評価を得た。アクアチントの黒とフォルムの白の造形的なバランスを変化させることでイメージを展開、「髭男」「小人」などのモチーフを配置して画面を構成する。出品作品ではヨーロッパの解剖図からの引用	62 魚の寓話 作品 NO.4 1976 エッチング、アクアチント 450×600 mm 28/30 作家蔵
坂東 壮一 ばんどう・そういち、1937- 香川県出身。1971(昭和46)年より町田市在住。独学で銅版画を習得、アクアチントで表現された深く柔らかな闇にうかびあがる幻想的な世界を描く。1996(平成8)年頃より、エッチングによる線のみで精密に描きこむ表現方法に取り組んでいる。書籍への関心も深く、本の形式をとった版画	50 四季 秋 1980年 エッチング 363×225 mm 29/30		63 蠟人形のある風景 作品 NO.2 1977 エッチング、アクアチント 450×600 mm 29/30 作家蔵
	51 四季・冬 1980年 エッチング 361×219 mm 21/30		64 絵のある風景--work NO.1-- 1977 エッチング、アクアチント 450×600 mm 15/20 作家蔵
	52 秋の球 1983年 エッチング 363×241 mm 16/30		

65 絵のある風景--work NO.2-- 1979 エッチング、アクアチント 450×600 mm épreuve d'artiste 作家蔵	68 月見ヶ原 2002 エングレーヴィング 236×330 mm 8/50 作家蔵	小川 一衛 おがわ・かずえ、1936-2010 群馬県桐生市出身。町田市広袴町および南大谷に暮らす。 東京藝術大学工芸科図案計画専攻卒業。民間企業で広告やデザインの仕事に携わったかわら、春陽会舞台美術部に出品。1968(昭和43)年から女子美術大学で教鞭をとる。1976(昭和51)年頃より版画の制作を始める。美しい色彩の多色刷りリトグラフが中心で、さりげない日常を題材に、人間のドラマが繰り広げられる虚構空間を版画平面のうちに描き出す。1980年代半ば以降は木口木版や木版、物の形を転写したシリーズなど実験的な作品も制作した。	83 望郷の歌 1986 木口木版、リトグラフ 550×670 mm 2/3 個人蔵
66 絵のある風景--work NO.3-- 1979 エッチング、アクアチント 450×600 mm 23/30 作家蔵	69 満開の桜 2004 エングレーヴィング 235×360 mm 4/50 作家蔵	70 天空の河 2004 エングレーヴィング 222×296 mm 7/35 作家蔵	84 地底の歌 1986? 木口木版、リトグラフ 570×680 mm 1/2 個人蔵
67 僻説—work NO.1— 1979 エッチング、アクアチント 450×600 mm épreuve d'artiste 作家蔵	71 川辺川晩夏 2006 エングレーヴィング 225×398 mm 8/50 作家蔵	79 木馬陣 1978 リトグラフ 550×650 mm A.P. 個人蔵	85 Landscape 95 1995 リトグラフ 570×680 mm 2/19 個人蔵
門坂 流 かどさか・りゅう、1948- 京都府京都市出身。1992(平成4)年より町田市在住。東京藝術大学油画科に入学するが、油彩になじまず、鉛筆やペンによる制作を始める。1985(昭和60)年以降、独学で銅版画を習得、ビュランという刃物で銅版を刻む感覚と線の鋭さに惹かれ、エングレーヴィング技法による制作を創作活動の中心としている。幼い頃より、川の流れや稲穂が風になびく様子を飽かず眺めていたといい、風景を主な主題として、自らの目でとらえた動きや流れを、繊細かつ流麗な線で表現している。会期中の3月23日(土)に公開制作、24日(日)に自作について語るギャラリートーク開催予定。	72 外海 2006 エングレーヴィング 240×365 mm 8/50 作家蔵	80 Hurdle VI 1979 リトグラフ 550×660 mm 7/12 個人蔵	86 Landscape 春愁 1995 頃 リトグラフ 680×570 mm 1/17 個人蔵
	73 硫黄岳 2008 エングレーヴィング 235×360 mm 7/20 作家蔵	81 痴呆の渥 1980 リトグラフ 550×660 mm 1/10 個人蔵	87 モリノの犬 1999 リトグラフ 460×680 mm 5/19 個人蔵
	74-75 縄文杉 2009 エングレーヴィング 320×240 mm 作家蔵	88 クレーンの見えるカテドラル 1999 リトグラフ 560×560 mm A.P. 個人蔵	89 展翅板シリーズ 2004 2004 木版 2/3 個人蔵 左:528×220 mm 中:528×445 mm 右:528×220 mm
	74 A.P. 75 5/30(雁皮紙刷り)	82 過ぎゆくとき 冬 1981 リトグラフ 660×550 mm 3/12 個人蔵	90 スルメスル 2009 木版 550×810 mm A.P. 個人蔵
	76-79 オンディーヌ 2011 235×315 mm 作家蔵		
	76 エングレーヴィング 77 エングレーヴィング、手彩色 78 エングレーヴィング、手彩色		

岡崎 和郎

おかざき・かずお、1930-

岡山県岡山市出身。町田市在住。

早稲田大学大学院で美術史を学ぶ。1963(昭和 38)年以来、オブジェを中心とした制作の根底にあるコンセプトは「御物補遺(ぎよぶつほい)」。これは、美術の世界に欠落した要素を補うという意味がある。そうしたものとして制作された作品は、ふだん目にしてのものに「何か」を補うことでその意味を変え、見る者の知覚を活性化するという。

出品作品は、さまざまな人物をオブジェで表した「Who's Who(人名録)」のシリーズから。「HITOHA」は「一葉」、樋口一葉のこと。葉むらの中で一枚だけハート型に整えられた葉は、生活や女性ゆえの制約に縛られ、恋に悩みながらも、優れた才能で自分の存在を静かに主張する彼女の人生を象徴しているのだろうか。

91

HITOHA〔赤〕

1979 オフセット

755×1071 mm A.P.

92

HITOHA〔黒〕

1979 オフセット

755×1071 mm

中里 斉

なかざと・ひとし、1936-2010

町田市森野出身。

桜美林学園、多摩美術大学で学び、ウィスコンシン大学大学院およびペンシルヴァニア大学美術大学院に留学、版画のプロセスに興味をもつ。1971(昭和 46)年以後ニューヨークに住む。ペンシルヴァニア大で版画を教え、日米の美術家の人的交流にも尽力した。絵画と版画で包括的な制作を行う。その作品はミニマル的と評され、単純明快な色彩と形態、最低限の要素だけで構成される理知的なものだが、どこかに東洋的なうおいがにじんでいる。それは、二つの国に生き、日本語と英語という二つの言語表現を常に意識しながら思考を重ねていた中里の生活の中で醸成されたものであろう。エントランス・ホールに展示した「町美シリーズ」は、2010(平成 22)年当館での個展の際に制作した作品。同展では作家自身が指揮し空間全体を作品とするスケールの大きい展示が行われた。同会期中に不慮の事故で急逝したことが惜しまれる。

93-95

Sand Print より

2009 スクリーンプリント、砂

1120×760 mm

93 モナド 砂 4

94 モナド 砂 5

95 モナド 砂 7

96-100

町美シリーズより

2010 布

7000×900 mm

赤瀬川 原平

あかせがわ・げんぺい、1937-

神奈川県横浜市出身。1984(昭和 59)年より町田市在住。

1960年代に前衛芸術運動に参加、路上で非日常的な行為を行うイベントで世間の注目を集める。イラスト、文筆活動など活動は多岐にわたる。出品作品の「四谷階段」とは、のぼった先に入口がない階段で、昇降運動をするための機能だけをもつ。四谷で「発見」したこの階段に赤瀬川は芸術性を見出し、こうした事例を集めた結果、「超芸術トマソン」の概念を誕生させた。その定義は「不動産に付着して美しく保存されている無用の長物」である。独自の視点を持つことで日常風景の中にも新しい価値を見出せることを示した「トマソン」は、80年代を中心にブームとなり、路上観察学会も結成された。

101

版画集『トマソン黙示録』より

真空の踊り場・四谷階段

1988 オフセット

365×515 mm 27/50

102

風のレコード・大盤

1988 オフセット

728×1030 mm H.C.

103

公務のドローイング採集

1988 オフセット

728×1030 mm H.C.

104

植物的無意識が含む π の採集

1988 オフセット

728×1030 mm H.C.

105

路上の日蝕観測

1988 オフセット

728×1030 mm H.C.

若林 奮

わかばやし・いさむ、1936-2003

東京府町田町原町田(現在の町田市原町田)出身。

1959(昭和 34)年東京藝術大学彫刻科卒業。早くから受賞を重ね、若くして評価を確立。戦後日本を代表する彫刻家のひとりである。鉄などの金属素材を用いた、深い自然観と強い空間意識に基づく思索的な作品で知られる。版画も重要な表現手段で、生涯に700点をこえる作品を残した。銅版画が中心だが、リトグラフや木版、さらには独自の技法を試みるなどその表現は多岐にわたる。出品作品はリトクレヨンで、大気の状態を意識しながら空間を描き出した『GRASS』と、コピートナーを使って筆で描かれた『SPADE』のふたつの版画集。

106
7月の冷却と加熱 ミズキの
一枝
1986 銅、フロッタージュ、
紙、鉛筆、鉄 270×450 mm

107-109
版画集『GRASS』
1993 リトグラフ
935×754 mm

110-114
版画集『SPADE』
1993 リトグラフ(コピーナ
ー使用) 930×753 mm

飯田 善國
いいだ・よしくに、1923-2006

栃木県足利郡(現在の足
利市)出身。町田市つくし
野に暮らした。
慶應義塾大学で美術史を、
東京藝術大学で油彩画を
学ぶ。1956(昭和31)年より
ローマ留学、彫刻を制作の
中心とし、ウィーンやベルリ
ンなど欧州各地で活躍。国
際的評価を受けた彫刻家
であり、詩や美術評論など
文筆活動でも知られる。ス
テンレスを使ったパブリッ
ク・アートを各地に設置、芹
ヶ谷公園の「彫刻噴水・シ
ーソー(虹と水の広場)」は
その代表作。版画制作にも
熱心で、詩画集『クロマトポ
イエマ』ではアルファベット
のそれぞれの文字に色を
あてはめることで、言葉と色
彩を結び付けようと試みた。
この試みはのちにステンレ
スの彫刻を鮮やかな色彩
の紐で結ぶ立体作品へと
展開していった。

115-121
詩画集『クロマトポイエマ』より
1972 スクリーンプリント
750×550 mm A.P.

115 表紙
116 vision and
117 dawns
118 stop illusion
119 conscience of
120 a packet of
121 a pot of basil

122-126
版画集『M.M.曲面シンドロ
ーム』より
1992 スクリーンプリント、オ
フセット、カラージュ
380×540 mm 47/60

122 BABY - WOMAN
123 BOTTOM - ROSE
124 LIPS - KUCHIBILU
125 MIRACLE OF M.M. -
KISEKI
126 Young - I am Marilyn
Monroe



Born After 1970

現在、町田市内に暮らしな
がら版画を制作している、
1970年以降生まれの作家
を紹介するコーナーです。
作家解説は本人によるもの
です。

滝口 志保
たきぐち・しほ 1970-

1970年千葉県生まれ。
女子美術大学にて版画(シ
ルクスクリーン)を専攻、現
在は油性木版による作品を
制作しています。作品づく
りは無意識にピックアップし
た不確かなものをかたちに
していくことがテーマです
が、版画(印刷)に必要な
「道具」の魅力も版画制作
を続けている大きな理由の
ひとつです。

127
大きな木の下で
2013 油性凸版(モノタイプ)
680×680 mm 作家蔵

河原 正弘
かわら・まさひろ 1971-

1971年神奈川県生まれ。
東京造形大学美術学科絵
画科版表現卒業。1996年
より版画工房にて版画刷
師・描版師(受注制作、アー
ティストとの共同制作)・版
画研究工房講師・制作補
助技術指導員を勤めつつ、
人間の行動や自然現象の
様々な痕跡を写真映像をも
ちいた版表現によって制
作・発表を続ける。2010年
に町田に版画工房カワラ
ボ!を設立し、アーティストと
の共同制作と版画出版、次
世代の育成(研究生制度・
各種版画講座)、アーティ
ストへの制作支援設備の提
供など開かれた総合版画
工房を目指す。

カワラボ！HP:
[http://kawalabo2010.
web.fc2.com](http://kawalabo2010.web.fc2.com)

128
Structure XXVI
2013 リトグラフ
490×759 mm 1/10 作家蔵

佐竹 宏樹

さたけ・ひろき 1973-

1973 年福岡県生まれ
1996 年東京造形大学卒業
1998 年長崎大学大学院教育学研究科修了
国内外のアーティストや子ども達と共同制作したり、交流展を企画したりしています。2005 年からは主に、家族の集合写真に花柄をステンシルした作品「Greeting flower」シリーズを制作しています。モデルと共同で壁画を作るワークショップ「おハながらート・プロジェクト」(2012 年「はじめましてアートラボ」橋本・神奈川)も展開中です。東京造形大学で木版画とシルクスクリーンを、町田市内の自宅アトリエで絵画・木版画、子ども造形教室「アートスクールつばめクラブ」を主宰しています。

アートスクールつばめクラブ
HP:
[http://www.syunendo.
com/tsubame/](http://www.syunendo.com/tsubame/)

129
Greeting flower
(K.F & H、ヒメシヤラ)
2013 ステンシル、マーブリング、グラッタージュ/和紙にアクリル、油彩
520×720 mm A.P. 作家蔵

庄司 光里

しょうじ・みさと 1974-

東京生まれ。1999 年多摩美術大学大学院版画専攻修了。伝統木版の手法を用いながら、一版を彫り進めて多色刷りをしています。近作は版画をもとに、コラージュや立体、観客に参加してもらった作品も発表しています。「藹藹(あいあい)」は、草木が茂り心が和らぐさま、という意味だそうです。「あい」には逢い、愛、哀、間、i(私)...この響きの広がり、3月11日からさらに意識するようになった、記憶の変化と日々生まれる出逢いのつながりを形にしています。

130
あいあい(みちのそら)
2013 木版、刺繍
780×610 mm 1/4 作家蔵

コバヤシ 麻衣子

こばやし・まいこ 1977-

1977 年神奈川県生まれ。1997 年武蔵野美術大学短期大学部デザイン科空間演出デザイン専攻卒業。2008 年英国国立ノーザンブリア大学大学院アートブ

ラクティスコース修士課程を好成績で修了。個人的社会的出来事に対する自己の興味を分析しつつ、それらの各断片を自ら創り出した生き物の形態を用いて、その時々感情／思考とともに画面上で再構築することにより、作者と鑑賞者との間をつなぐ多様なコミュニケーションの在り方(独自の視覚言語の創作)を追求している。

Axis for contemporary art HP:
[http://axisweb.org/artist/
/maikokobayashi](http://axisweb.org/artist/maikokobayashi)

ブログ:
[http://ameblo.jp/maiko-
kobayashi/](http://ameblo.jp/maikokobayashi/)

131
A Little Something
2012 リトグラフ
785×600 mm 11/13 作家蔵

近藤 英樹

こんどう・ひでき 1977-

2002 年武蔵野美術大学大学院修了。2003 年オランダハーグ王立美術アカデミー研究生。植物や生物をモチーフに、リトグラフおよび立体による制作、発表を行っている。2010 年「ミルコトカラハジマル〜自然との対話」愛媛県美術館ほかに出品。武蔵野美術大学非常勤講師。

ブログ
[http://hidekikondo-works.
blogspot.jp/](http://hidekikondo-works.blogspot.jp/)

132
hana-hana
2011 リトグラフ
880×690 mm 1/4 作家蔵

平川 幸栄

ひらかわ・さちえ 1979-

1979 年愛媛県生まれ。東京造形大学美術学科絵画科版画表現卒業。2005 年より版画工房にて制作補助技術指導員を勤めつつ、平版の効果の幅を追求し制作・発表を続ける。2010 年に町田に版画工房カワラボ!を設立し、アーティストとの共同制作と版画出版、次世代の育成、アーティストへの制作支援設備の提供など開かれた総合版画工房を目指す。

カワラボ！HP:
[http://kawalabo2010.
web.fc2.com](http://kawalabo2010.web.fc2.com)

133
The Cabbage Princess XIV
2013 リトグラフ
820×630 mm 1/7 作家蔵

尾崎 幸

おざき・みゆき 1980-

1980年静岡県生まれ。
名古屋芸術大学大学院を卒業。
銅版画による絵本を制作している。
「おいしいおかゆ」(富安陽子／文 フェリシモ出版 2010年刊)がデビュー作。

134

『おいしいおかゆ』原画
2009 エッチング、アクアチント、手彩色
各 250×372 mm 作家蔵

鹿嶋 裕一

かしま・ゆういち 1981-

1981年町田市生まれ。
2009年東京藝術大学大学院美術研究科絵画科専攻版画研究室修了。
作品のテーマは、ほとんどが毎日見ている風景です。知っている風景からは、日常のいろんな変化を感じとることが出来るからです。
葉っぱの裏に付いている虫の卵や、池にいる魚、ザリガニやとんぼを捕まえるのが得意です。
版画制作において、全く関係なさそうな色んなことが、自分にとって重要なことだと思えます。

135

つくし野
2012 木版
650×850 mm A.P. 作家蔵

西山 瑠依

にしやま・るい 1986-

1986年神奈川県生まれ。
2012年多摩美術大学美術学部卒業。現在多摩美術大学大学院版画領域在籍中。
私は私が描きたいと願うものを版とともに表現しています。

HP:

<http://nishiyamarui.jimdo.com/>

136

fix.23
2013 木版 600×790 mm
1/1 作家蔵

米澤 寛子

よねざわ・ひろこ 1986-

1986年愛知県生まれ。
2009年名古屋造形大学卒業。現在、版画工房カラワボ！研究生。
自身のなにげないラクガキや走り書きから印象深いものを取り出し、版の上で構成することで自己表現の明確化を目指す。

137

三角の家
2013 リトグラフ
800×595 mm 1/9 作家蔵

町田市立国際版画美術館
〒194-0013
町田市原町田 4-28-1
Tel. 042-726-2771
2013年3月9日発行